

目的の四十日

40 Days of Purpose Workbook



氏名 _____

このワークブックの使い方

1. このワークブックは、「目的の四十日」プログラムで、『人生を導く5つの目的』を学ぶために作られました。
2. 最初に、パートナーを選び、このワークブックの最後にある「決意書」に署名してください。「パートナー」とは、このプログラムを成し遂げるために、互いに祈りあったり、励ましあったりする人のことです。あなたの家族か、親しくしている教会の兄弟姉妹の中からひとりを選んでください。「パートナー」とは、少なくとも週に一度、このプログラムから学んだことを分かち合い、ともに祈りあうようにしましょう。決意書は牧師に提出して下さい。
3. 毎日『人生を導く5つの目的』を読む時間をとりましょう。急いで先を読まないで、一日分づつ、良く理解し、味わい、考えながら読みましょう。
4. 一日ごとに用意された「熟考するポイント」「覚える聖書箇所」「考えてみましょう」に従って、学んだことを自分自身にあてはめるようにしましょう。
5. 「覚える聖書箇所」(暗誦聖句)については、『人生を導く5つの目的』からではなく、聖書を開いて前後関係や文脈を理解しながら、口に出して唱え、覚えるようにしてください。そして、このワークブックに、聖書箇所を書き出してください。
6. 一週ごとに、それぞれの週の各ページにある要約の「ステートメント」をあげておきました。それぞれのステートメントをもう一度考え、自分に当てはめてみてください。ステートメントの中には理解できないものや賛成できないものがあるかもしれませんが、その場合は『人生を導く5つの目的』に戻って、著者が言おうとしていることを再確認するようにしてください。
7. 「ディスカッション」は、聖書クラスなどで使うために作られました。できるだけ、どれかの聖書クラスに参加してください。もし、それが出来ない時は、あなたのパートナーとディスカッションの質問を一緒に考えてみてください。
8. 「目的の四十日」プログラムは、単なる聖書の学びでも、スモールグループでもありません。それは、基本的には、個々人が神とのまじわりの中でする「デボーション」であり、そこで教えられたことを「実践」することです。頭でっかちになることなく、神の前に「心」を整えられ、信仰の「足腰」を鍛えていきましょう。
9. 『人生を導く5つの目的』の23-24ページに「どうしたら、過密スケジュールの中にさらに多くの活動を組み込めるのかを教えているわけでもありません。むしろ、どうしたら活動を減らすことができるのかを示しています。」とあるように、このプログラムは、それを「こなす」ことが求められている「活動」ではありません。そのことをわきまえて神との交わりに焦点をあわましょう。そして、そこから来る祝福を体験しましょう。
10. どの信仰の手引きもそうですが、『人生を導く5つの目的』も、おそらく40日間だけでは完全に習得することはできないでしょう。「目的の四十日」プログラムが終わった後も、良く理解できなかったところ、頭では分かっているけど実践されていない部分に、神の助けによって取り組み、それらを習得するように努めましょう。

序 私は何のために生きているのか

(第1週)

1日目 人生は私が中心ではない(コロサイ 1:16)

2日目 私は偶然に存在しているのではない(イザヤ 44:2)

3日目 目的に従って生きる人生こそ平安にいたる道である(イザヤ 26:3)

4日目 人生には、この地上における生活以上のものがある(ヨハネ第一 2:17)

5日目 人生はテストであり、また預かりものである(ルカ 16:10)

6日目 この世界が私の故郷ではない(コリント第二 4:18)

7日目 すべてのものは神のために存在している(ローマ 11:36)

(第1週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- 自分を中心にして考えていても人生の目的は決して見えてきません。
- あなたは神によって、そして神のために造られました。このことが理解できるまで、人生は決して意味を持ちません。
- 母親があなたを身ごもるずっと以前から、神はあなたのことを心に思い描いておられました。
- 自分の人生に用意されている神の目的を知ることに以上には大切なことはありません。しかも、それを知らずに他の何かで埋め合わせることはできないのです。
- 影響力のある人生の秘訣は、焦点を定めた生き方にあります。
- あなたは人々に覚えてもらうために生きているわけではありません。永遠への準備をするために生きているのです。
- この世は次の人生への準備なのです。
- 永遠の光のもとで生きていく時、あなたの価値観は一変します。
- 人格というものは、試されることによって成長し、真価が問われていきます。
- 神があなたに多くのものを与えておられるのなら、それだけあなたには多くの責任が期待されているのです。
- あなたの身元は永遠という場所にあり、あなたの故郷は天にあることを覚えてください。
- 地上は私たちの最終的な故郷ではないということです。私たちには、遥かにすばらしい世界が用意されているのですから。
- 神の栄光のために生きることほどすばらしい生き方は他にありません。
- どんなものであれ、被造物がその造られた目的を果たしていく時、神の栄光が現わされます。
- 神は、あなたが神のために生きようと決心した時から、あなたに必要なものをことごとく備えてくださるのです。

(第1週) ディスカッション

(Part 1)

1. 「人生はあなたが中心ではありません」というこの本の最初の言葉が意味していることは何だと思いますか。(1日目、p.21-22)
2. 多くの人の人生は何によって動かされていると思いますか。あなたの人生はどうでしょうか。(3日目、p.35-38)
3. 自分のこれまでの人生を最も適切に描写するイメージ、あるいは象徴するものは何でしょうか。レース、サーカス、それとも…。(5日目、p.54-55)

(Part 2)

4. もし、この地上における人生が実は永遠への準備期間であるということが分かったなら、私たちはどのように行動するようになるでしょうか。(6日目、p.63-64)
5. 神の目的に生きることを妨げ、人々の心をつらえて離さない地上のものは何でしょうか。
6. 神の目的に生きることを妨げ、あなたの心をつらえてきたものは何でしょうか。

第 1 の目的 私は神の喜びのために造られた

(第 2 週)

8 日目 私は神の喜びのために造られた (詩篇 149:4)

9 日目 私が神に信頼する時、神は微笑まれる (詩篇 147:11)

10 日目 礼拝の本質は降伏することにある (ローマ 6:13)

11 日目 神は私の一番の親友になりたいと思っておられる (詩篇 25:14)

12 日目 どれだけ神と親しくなれるかは、私の選択にかかっている (ヤコブ 4:8)

13 日目 神は私のすべてを求めておられる (マルコ 12:30)

14 日目 私がどのように感じようとも、神は現実のお方である (ヘブル 13:5)

(第2週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- 神に喜ばれるためにあなたがする行為はすべて礼拝です。
- 礼拝とは、音楽を遥かに越えたものである。
- 神はあなたと親しい関係を築きたいと願っておられるのです。
- 心から神に信頼するということは、あなたの人生における最善を一番よくご存じなのは神であると信じることです。
- 神はあなたの生活の細部に至るまで興味をお持ちなのです。
- 自分自身を神にささげることが、礼拝のすべてなのです。
- 降伏は、従順と信頼という姿勢に現われます。
- 降伏は最高の生き方です。いや、それは唯一の生き方と言うべきでしょう。
- 神を知り、神を愛することは、私たちの最大の特権です。
- もし、あなたが何をする時でもその場に神をお招きし、絶えず神の臨在を意識して過ごすのであれば、あなたの活動はすべて「神と時間を過ごすこと」になり得るのです。
- 神はあなたに完璧であることを求めておられませんが、いつも正直であることを強く求められるのです。
- 苦々しさは、神との友情を妨げる最大の障壁です。
- 神との友情が深まるほど、神が関心を持っておられることに関心を寄せるようになります。
- 神に喜ばれる礼拝というのは、情熱的であると同時に教理的でもあるべきなのです。私たちは心も頭も動員する必要があります。
- 最も良い礼拝のスタイルとは、あなたが最も自然に神に対する愛を表現できるスタイルです。
- 真の礼拝は御言葉に根ざしています。
- 神は時としてあなたの人生において行方不明になることがあるのです。
- 今日、礼拝においてクリスチャンたちが犯している典型的な間違いというのは、神ご自身を求めるよりも、何らかの体験を求めていることです。
- 神に見捨てられたと感じることがあっても、その感情に左右されずに神を信じ続ける時、あなたは最も深いレベルで礼拝しているのです。

(第2週) ディスカッション

(Part 1)

1. 多くの人には「礼拝」をどのように理解していますか。「神の喜びのために生きる」ことは、そのような「礼拝」の理解とどのように違っていませんか。(8日目、p.85)
2. 神との友情と、人との友情は、どこが似ていて、どこが違いますか。(12日目)
3. 神が遠くにおられると感じたことがありましたか。そのような体験を通して、どんなことを学びましたか。(14日目、p.145以下)

(Part 2)

4. 皆で集まってささげる公同の礼拝と個人の礼拝とでは、どちらがあなたに向いていると思いますか。どちらが神を身近に感じることができますか。(13日目、p.137-138)
5. 自分の怒りを神に言い表わすのに適した時はいつだと思いますか。(14日目、p.148-149)
6. 人生をすべてキリストにゆだねようとする時、どのような恐れが湧いてきますか。(10日目、p.107-108)

第2の目的 私は神の家族となるために造られた

(第3週)

15日目 私は神の家族となるために造られた(エペソ 1:5)

16日目 生きるとは、愛することである(ガラテヤ 5:14)

17日目 私は、信じるだけでなく、所属するように召されている(ローマ 12:5)

18日目 人生には他の人たちが必要である(ガラテヤ 6:2)

19日目 共同体は献身を要求する(ヨハネ第一 3:16)

20日目 人間関係は、どんな場合でも回復させるに価するものである(ローマ 12:18)

21日目 教会の一致を守るのは、私の責任である(ローマ 14:19)

(第3週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- あなたの霊的家族関係は、あなたの血縁関係よりも大切なものです。なぜなら、この霊的家族関係は永遠に続いていくものだからです。
- 神の家族に加えられているということほど名誉なことはありません。それは、あなたが手にすることのできる最高の特権なのです。
- 関係こそ人生のすべてである。
- 時間こそあなたが人に与えることのできる最高の贈り物なのです。
- あなたは他の人との関係の中でこそ、自分の役割りを見出すことができるのです。
- 教会はこの世界が終わっても存在し続けます。そして、あなたの役割もその中で生き続けるのです。
- 主イエスはあなたの奉仕(ミニストリー)を建て上げるとは約束されませんでした。ご自分の教会を建て上げると約束されたのです。
- 人が自分自身について、また自分の人生に起きていることについて正直になる時、本当の交わりが始まります。
- あなたが誰かの気持ちを理解し、ありのままを受けとめる時、そこに交わりが生まれます。
- 衝突が正しく取り扱われ、互いに向き合い、私たちはさらに親しくなっていくことができるのです。
- 謙遜とは、自分を軽んじるのではなく、自分のことばかりを考えるのをやめることです。
- 教会の交わりはいかなる個人よりも大切なものなのです。
- 神は、あなたの方から最初に行動を起こすことを期待しておられます。
- 問題を解決するにあたっては、言い方がその内容と同じくらい重要になってきます。
- 和解というのは関係に焦点を合わせる行為であり、解決というのは問題に焦点を合わせる行為です。
- 神にとって教会以上に大切なものはこの地上に存在しません。
- 私たちは、たとえ教会が不完全であったとしても、情熱を持って教会を愛さなければなりません。
- 指導という形で私たちに仕えている人たちに敬意を払う時、私たちは教会の交わりを守ることになります。

(第3週) ディスカッション

(Part 1)

1. 「イエス・キリストに献身するのと同じようにお互いに献身すること」は、多くの人が考えている「交わり」とどのように違いますか。(17日目、p.183-184、18日目、p.186-187)
2. 他のクリスチャンを愛し、助けることを妨げているものは何でしょうか。
3. どうしたらもっと自由に自分の必要、傷、恐れ、願いなどを他の人に分かち合うことができるでしょうか。(18日目、p.188-189)

(Part 2)

4. 人々が教会に加わろうとしない最も一般的な言い訳は何ですか。あなたならそれに何と答えますか。(21日目、p.217)
5. 教会の一致を保ち、それを強化していくために、私たちのグループにできることは何でしょうか。(21日目)
6. 回復させなければならない人間関係があるでしょうか。その人のために皆で祈りましょう。

第3の目的 私はキリストのようになるために造られた

(第4週)

22 日目 私はキリストのようになるために造られた(コリント第二 3:18)

23 日目 成長を始めるのに遅すぎるといことはない(ローマ 12:2)

24 日目 真理が私を造り変える(ヨハネ 8:31-32)

25 日目 あらゆる問題の背後には神の目的がある(ローマ 8:28)

26 日目 あらゆる誘惑は善を行なう機会となる(ヤコブ 1:12)

27 日目 試練には、いつでも出口が用意されている(コリント第一 10:13)

28 日目 成熟にいたる近道はない(ピリピ 1:6)

(第4週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- 神があなたの人生に対して持つておられる最終目標は、あなたが快適な生活を送ることではなく、あなたが人格的に成長することです。
- 人格とは、根本的には習慣の総計です。
- 神は、あなたのすることよりも、あなたの在り方にずっと多くの関心を持つておられます。
- 私たちは自分が深く傾倒しているものに近づいていくものなのです。
- あなたの考え方が、あなたの感じ方に影響を与えます。そして、どう感じるかによって行動の仕方が決まってくるのです。
- 神の御霊が、神の御言葉を用いて私たちを神の御子に似た者としてくださるのです。
- 聖書の表紙から裏表紙まで皆信じているという人に限って、聖書を初めから終わりまで読んだことがないという場合がよくあります。
- 真理はあなたがたを自由にします。しかし、初めにあなたを惨めな気持ちにさせるかもしれません。
- あなたが最も深く親密な礼拝を体験したのは、あなたにとって最も暗い日々であったに違いありません。
- あなたが経験することはすべて、霊的に見れば重要な意味を持っています。
- 私たちの外側で起こることは、私たちの内側に起こることほど重要ではありません。
- 神は、全く正反対の態度に出たくなるような状況を経験させることによって、あなたの人生に御霊の実を結ぼうとされます。
- 私たちは、誘惑とは自分の周りにあるものと考えがちですが、それは実は私たちの内側から始まるものなのです。
- 誘惑を受けるのは、あなたが弱いからとか、世俗的であるからというのではなく、悪魔があなたを憎んでいる証拠なのです。
- 罪との戦いの勝敗はあなたの心の中で決まるものです。あなたの注意を引くものが、あなたの心をつらえます。
- 人に言えないことというのは、制御不能になっていることなのです。
- 悪魔と言い争ってははいけません。悪魔はあなたよりも議論に長けているからです。何千年もの間、練習を積み重ねて来ているのですから当然です。
- 私たちはどれだけ早く成長するかに関心を持ちますが、神は私たちがどれだけたくましく成長するかに関心を持つておられます。
- 変化を伴わずに成長はあり得ません。また、恐れや損失を伴わずに変化は起こりません。そして痛みなくして損失はあり得ないのです。
- しかし、神は決して焦って事を進めたりなさらず、いつも予定通りに事を進めておられることを覚えておいていただきたいのです。

(第4週) ディスカッション

(Part 1)

1. 「イエス・キリストのようになること」は、多くの人が考えている「弟子訓練」とどのように違いますか。
2. 神を信じるようになってから、あなたの人生にはどんな変化が見られましたか。まわりの人はあなたのどのような変化に気付いているのでしょうか。
3. 今から一年間、あなたはどうかキリストに近づいていきたいですか。その目標に近づいていくために、今日何ができるのでしょうか。

(Part 2)

4. 自分の霊的成長を振り返る時、あまり成長が見られないために忍耐を試されている分野はどこでしょうか。
5. 神はあなたを成長させるために、どのように痛みや問題を用いられましたか。
6. 誘惑に対して最も無力になるのはどのような場合でしょうか。誘惑に打ち勝つために最も役に立ったステップは何でしたか。

第4の目的 私は神に仕えるために造られた

(第5週)

29日目 奉仕はオプションではない(エペソ 2:10)

30日目 私は神に仕えるために造られた(コリント第一 12:6)

31日目 誰も私のようにすることはできない(ペテロ第一 4:10)

32日目 神は、私の最高のものを受けけるに価するお方である(テモテ第二 2:15)

33日目 人に仕えることを通して神に仕える(マタイ 10:42)

34日目 しもべになるためには、しもべのように考えなければならない(ピリピ 2:5)

35日目 自分の弱さを認める時、神は最もよく働いてくださる(コリント第二 12:9)

(第5週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- もし私が、人を愛する心も、人に仕える願いも持っていないなら、そして自分のことにしか関心がないのであれば、自分の人生の中に本当にキリストがおられるのかどうか、自問してみる必要があるでしょう。
- 霊的成熟というものはそれ自体の中に目的があるわけではありません。わたしたちは、与える者となるために成長していくのです。
- 奉仕こそ、真の人生の意義に通じる道です。
- 神は何一つ無駄にはなさいません。
- せっかくの贈り物も未開封のままでは意味がありません。
- あなたが自分の好きなことをしているのであれば、動機づけも必要ありません。
- 私にできることを、神は私にさせたいと願っておられる。
- 神から与えられた個性を生かすのは、心地良いものです。
- 神がその痛みの経験を用いたいと願っておられるのであれば、あなたは喜んでそれを分かち合わなければなりません。
- 実際にやってみなければ、得意なことは分かりません。
- 神はあなたに、ありのままの自分を満喫してほしいと願っておられます。
- あなたの適性は、あなたのミニストリーを明らかにするものですが、あなたのしもべとしての心構えは、あなたの成熟度を明らかにします。
- 偉大な働きをする機会というのは、しばしば小さな仕事を装って訪れるものです。
- 真のしもべは、自分の目的のために神を利用することはありません。むしろ、神の目的のために自分を使っていたかどうかとするのです。
- 主イエスに近づけば近づくほど、あなたは自分を持ち上げる必要がなくなっていくのです。
- もし、神が完全な人しかお用ににならないのであれば、神の働きは全く前進しなくなってしまうでしょう。
- 最も効果的なミニストリーは、あなたの最も深い傷から生まれてきます。

(第5週) ディスカッション

(Part 1)

1. 「自分の形に合った仕え方をすること」は、多くの人が考えている「奉仕」とどのように違いますか。(31日目)
2. 神の家族の中で他の人に仕えるために、あなたが喜んでできることは何でしょうか。
3. 自分が経験した苦しみと同じような苦しみを味わっている人たちを助けるために、神が用いようとしておられる過去の苦しい経験について考えてみましょう。(32日目、p.330-321)

(Part 2)

4. 自分のユニークな形を成長させていく上で、人との比較がどのように妨げとなるでしょうか。(32日目、p.331-333)
5. 弱さを痛感していた時に、自分を通して現わされた神の力はどのようなものでしたか。(35日目)
6. スモール・グループやクラスのメンバーが奉仕の場を見つけるために、私たちにできることは何でしょうか。自分の教会に仕えるために、私たちのグループには何ができるでしょうか。

第5の目的 私は使命のために造られた

(第6週)

36日目 私は使命のために造られた(マタイ 28:19-20)

37日目 神は、私を通してこの世界に何かを語りたいと願っておられる(ペテロ第一 3:15-16)

38日目 大宣教命令は私に与えられた命令である(詩篇 67:2)

39日目 人生のバランスを保つものは幸いである(エペソ 5:15)

40日目 目的に生きることこそ、命に溢れて生きる唯一の道である(使徒 13:36)

(第6週) 次のステートメントをもう一度考え、自分にあてはめてみましょう

- 主イエスは、私たちが単にご自分のもとに来るようにと召し出されただけでなく、彼のために出ていく者となるように召し出されたのです。
- 大宣教命令(弟子作り大命令)は、キリストに従うすべての者に与えられている命令です。
- 悪魔は、あなたが自分の信仰を分かち合う以外のことに一所懸命になるよう、いつも働きかけているのです。
- 個人的な証しを分かち合うことで、イエス・キリストを人々の心に届ける掛け橋を築くことができるのです。
- 経験から学ぶ人は賢明ですが、他人の経験から学ぶ人はもっと賢明です。
- 神は私たちに、それぞれ異なった情熱をお与えになります。それは、あらゆる分野で神の働きが前進していくためです。
- 今日ほど、全世界に出て行くという使命を果たしていくことが容易になった時代はないでしょう。
- 人々は私たちの愛を受け入れず、私たちのメッセージを拒否するかもしれません。しかし、そのような彼らであっても、私たちの祈りに対しては無防備なのです。
- 「宝をもって次の世に行くことはできない」とよく言われます。しかし聖書は、人々を天国に導くために投資することによって、前もって天に宝を積み立てておくことができる、と教えています。
- 「最も大切な戒め」と「大宣教命令(弟子作り大命令)」に献身することによって、あなたも成長したクリスチャンとなることができます。
- 神の目的を達成していく上で、どのような神の導きを受けてきたのかを次の世代のために書き残しておくことは、あなたの責任です。
- 神が中心におられる時には、あなたは礼拝をささげます。しかし神が中心におられない時には、あなたは心配するようになるのです。
- 未信者の方々の多くは、聖書の信頼性を受け入れる前に、私たちクリスチャンが信用できるかどうかを知りたがっているのです。
- あなたも今日から、神の目的に生きる人生を始めることができるのです。

(第6週) ディスカッション

(Part 1)

1. 人々が「伝道」という言葉を聞く時に抱く、一般的な恐れや先入観は何でしょうか。(38 日目、p.397-398)
2. 神が人々に分かち合うようにとあなたにお与えになったのではないかと思われる体験で、ライフ・メッセージの一部になりそうなものが何かありますか。(37 日目)
3. 未信者の友人の名前を挙げて、その人のためにグループの皆で祈りましょう。

(Part 2)

4. 大宣教命令(弟子作り大命令)を達成していくために、私たちのグループにできることは何でしょうか。
5. この本と一緒に読んできたことによって、あなたはどのように自分の人生の軌道修正をし、また新しい方向性を見出しましたか。あなたにとって最も意味のあった発見は何でしたか。
6. この本で語られている、人生を変えるメッセージを分かち合うようにと、神があなたの心に示された人は誰でしょうか。

全体の要約

私の人生の...

第 1 の目的 _____

心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。(マルコ 12:30)

第 2 の目的 _____

そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、(マタイ 28:19 後半)

第 3 の目的 _____

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。
(マタイ 28:19 前半)

第 4 の目的 _____

あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。(マルコ 12:31)

第 5 の目的 _____

また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。(マタイ 28:20 前半)

(39 日目、p.402 参照)

私の人生の「目的声明文」

Life Purpose Statement

署名_____

日付_____

目的の四十日

40 Days of Purpose

私の決意書

今日から 40 日間を、神の助けによって、
私の人生に対する神の目的を発見するためにささげます。

_____年____月____日

氏 名 _____

パートナーの氏名 _____